

主な使用例

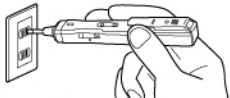
LEDランプとブザーで通電状況を知らせます。

「H」「L」「O」の3段階で感度の調整ができる感度スイッチ付です。

ケーブル、コードの被膜の上からチェックできる安全設計です。

家庭用電源の極性判定

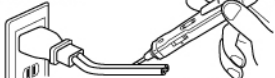
① AC(交流)通電チェック (AC極性判定)



HOT側 / アース側のチェックができます

被覆の上からチェック

② 非接触テスト



ケーブル、電気機器コードの被覆の上から検知ができ、通電しているかどうかまた断線箇所の発見にも役立ちます。

配線、電気機器チェック

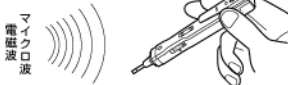
③ 導通テスト



電気機器や電球、ヒューズ、配線、ケーブル、回路など導通しているかを迅速に点検できます。

高感度で電磁波を感知

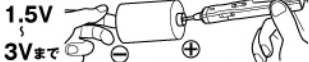
④ 電磁波・マイクロ波チェック



テレビの画面、パソコン、電子レンジなどいろいろお試しください。

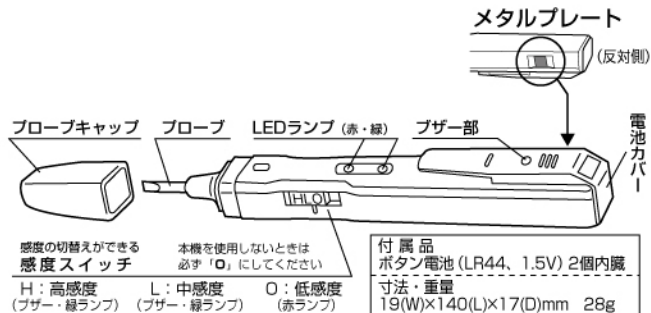
小型電池のチェック

⑤ DC(直流)極性チェック



小型電池などの極性チェックができます。

注：自動車用バッテリーなどの高い電圧のものは危険ですので行わないでください。DC機器 / DC配線の極性チェックはできません。



測定前の準備

- ① 初めてご使用する際は、電池カバーを開けて透明シートを外してください。
- ② 感度スイッチを「O」にして、片手を**メタルプレートに触れてください**。もう一方の手をプローブに接触させます。⇒ **赤いランプが点滅します。**
- ③ 既に通電が分かっている電源で動作確認を行います。感度スイッチを「L」にして、**メタルプレートに触れないでHOT側にプローブの先端を差し込みます。**

⇒ **緑のランプが点滅しブザーが鳴ります。**

感度スイッチが「H」の場合は、感度が高く他の環境（電磁波）によりランプが点滅しブザーが鳴る場合があります。

チェック中にLEDランプまたはブザーによる応答が無ければ、電池切れの可能性もありますのでご確認ください。

① AC (交流) 通電チェック (AC極性判定)

HOT側 / アース側のチェックができます。



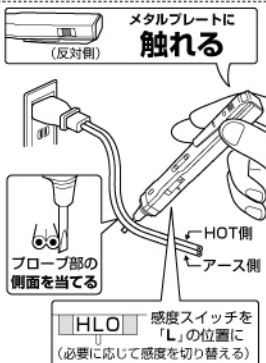
感度スイッチを「L」にします。(必要に応じて感度を切替)コンセントの穴にプローブ先端を差し込みます。この時メタルプレートに触れないでください。

緑のランプが点滅しブザーが鳴る側がHOT側で
反応がない側がアース側 (COLD側) です。

(感度スイッチを「O」に選択した場合は、赤のランプが点滅し、ブザーは鳴りません)

② 非接触テスト

ケーブル、電気機器コードの被覆の上から検知ができ、通電しているかどうかまた断線箇所の発見にも役立ちます。



感度スイッチを「L」にします。(必要に応じて「H」に切替)片手をメタルプレートに触れて、コード被膜上にプローブの側面をあてます。

緑のランプが点滅しブザーが鳴る側がHOT側で
反応がない側がアース側 (COLD側) です。

・250V以上を超える場合はプローブキャップを装着してご使用ください。
・裸端子の近くでは両極とも反応することがあります。

ケーブル、電気機器コードの断線箇所の検知方法

感度スイッチを「L」にします。(必要に応じて「H」に切替)片手をメタルプレートに触れて、プローブをゆっくりケーブルに沿わせて動かします。

緑のランプとブザーの応答が停止した箇所が断線部の可能性を示しています。

(2重シースや厚い被覆の場合、感度スイッチを「H」に選択しても検知できないことがあります。)

③ 導通テスト

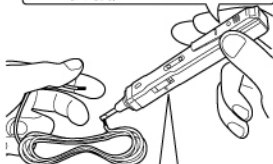
電気機器や電球、ヒューズ、配線、ケーブル、回路など導通しているかを迅速に点検できます。



メタルプレートに
触れる

必ず通電していないことを確認の上ご使用
ください。(電源を遮断してください。)

感度スイッチを「L」にします。(必要に応じて感度
を切替) 導通間と思われる一方にプローブ先端を
接触させ、もう一方を指で触れます。
この時メタルプレートに触れてください。



HLO 感度スイッチを
「L」の位置に
(必要に応じて感度を切り替える)

導通(または短絡)していれば、緑のランプが点滅し
ブザーが鳴ります。

(感度スイッチを「O」に選択した場合は、赤のランプ
が点滅し、ブザーは鳴りません。)

④ 電磁波・マイクロ波チェック

テレビの画面、パソコン、電子レンジなどいろいろお試してください。



メタルプレートに
触れる

感度スイッチを「H」にし、メタルプレートに
触れてプローブ先端をテレビの画面や電子レンジ
などに近づけてください。

電磁波
マイクロ波



HLO 感度スイッチを
「H」の位置に

電磁波・マイクロ波を感知すると、緑のランプが
点滅しブザーが鳴ります。

⑤ DC(直流) 極性チェック

1.5~3V まで

小型電池の極性チェックができます。



メタルプレートに
触れる

(反対側)

感度スイッチを「0」にして、メタルプレートに触れてください。プローブ先端を電池の極性の一方に接触させ、もう一方を指で触れてください。

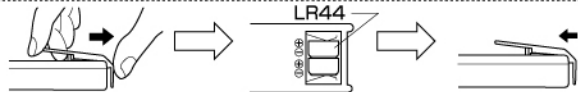


赤いランプが点滅した時のプローブ先端側が⊕極、指側が⊖極になります。この時ブザーは鳴りません。また、電極が反対の場合はランプは点滅しません。

ショートや感電に十分ご注意ください。自動車バッテリーなどの高い電圧への人体の接触は危険ですのでおこなわないでください。また、DC機器/DC記録の通電チェック(極性チェック)はできません。

電池交換について

LEDランプが不自然に点滅したり、ブザーの音が断続的に切れたりするときは、電池の電圧が不足していますので電池交換する必要があります。



クリップを少し持ち上げ、電池カバーを図のようにスライドさせて開きます。

新品ボタン電池(LR44)2個を⊕⊖の極性を間違えないように注意しながら装着します。

クリップを元の状態に戻します。

⚠ 注意



「スイッチ付きタップ」について

- 電源プラグを差し込み、スイッチがOFFの状態でもHOT側、アース側どちらもLEDが点灯することがあります。これは差し込んだ電源プラグの極性の違いによる場合があります。タップの電源プラグを左右逆にしてコンセントに差し込んでください。

- 紫外線（太陽光線）により、赤ランプが点滅することがありますが故障ではありません。手で遮断してご使用ください。
- 電磁波に反応する構造の為、電磁場が多いところではLEDライトが反応することがあります。
- 本体表面を不要にこすると、静電気が生じて誤作動を起こす場合がありますのでご注意ください。
- 250Vを越える非接触テストではプローブキャップを外さないでください。
- 本機を使用しないときは、必ず感度スイッチを「0」の位置にして保存してください。
- 商品の検電機能範囲内でご使用ください。
- マイナスドライバーの代わりに使用しないでください。
- 正しい用途・使い方を確認してご使用ください。
- ショート・感電にご注意ください。
- 水・油等のついた状態で使用しないでください。
- 割れ、欠け、変形等の異常が認められた場合は使用しないでください。事故やケガの原因となる恐れがあります。
- 子供や幼児の手の届かないところに保管してください。

この商品は中国で生産されていますが、企画・品質管理・検査は日本で行われており安心してご使用いただけます。製品に万が一不都合がありましたら、弊社までご連絡ください。